

平成 20 年 3 月 修士・専門職・博士学位記授与式 (2008. 3. 25)

修了生等総代答辞 国際文化研究科 金 廷珉

冬の厳しい寒さも安らぎ杜の都
仙台にも心なしか春の訪れが感じ
られるようになりました。

本日は井上明久総長をはじめと
した先生方並びにご来賓の皆様
にご臨席を賜り、私たち修了生等
のためにこのような盛大な学位記授
与式を挙げて頂きましたことに
修了生を代表して深く感謝を申し
上げます。



卒業を迎えることができた今、これまでの研究生活を振り返ってみますと、長いよ
うで短い5年間であったと感じております。入学時は、大学院という未知の世界に対
する不安と期待に加え、自分の生まれ育った国を離れ、不慣れな異国で新しい生活と
研究を両立させることは決してたやすいことではありませんでした。しかし、先生方
や先輩方の親身で丁寧なご指導の下、自分の専門分野を深めることができ、杜の都仙
台の緑豊かな自然環境に恵まれ、充実した研究生活を送ることができました。そして、
本日このように学位を授与されましたことはこの上ない光栄であります。

東北大学は開学以来 100 年間「研究第一主義」を基本理念として掲げ、常に最先端
の研究成果を世に発信し続け、優秀な人材を排出してきました。しかし、日本の大学
に対して様々な方面において大きな改革が求められている今、次世代を担っていく私
たちに求められるのは、学問を目指す意義を正しく理解し、専門分野の研究成果を自
己満足にとどめることなく、「実学」として社会へ還元していくことであると考えてお
ります。

私は小学生の頃はじめて日本文化に触れ、中学、高校時代に日本への留学を経験い
たしました。その後も、日本語への興味を持ち続け、より専門的に日本語の構造と機
能の相互関係を探求したいという志を持って、本学大学院博士課程前期 2 年の課程、

さらに後期3年の課程に進学し、日本語と自分の母語である韓国語の対照研究を行ってまいりました。

ご存知の通り、日本と韓国は歴史的にも密接な関わりを持つ隣国であり、言語に関しても日本語と韓国語は、世界のどの言語に比べても最も類似点の多い言語と言われております。言葉というものは、人と人とのコミュニケーションの手段ではありますが、私は言語研究を通して、その言語の背後に潜んでいる文化や、価値観などの相違を垣間見ることができました。そして、外国語である日本語と、母語である韓国語を対照させることにより、自分の母語の特徴をより客観的に分析する力が養えたものと考えております。

おりしも、昨今は、日本における韓流ブームなどの影響により、日本と韓国は民間のレベルでの交流も盛んになり、韓国語を学習する日本人学習者が急増しております。今後、日本の社会における韓国語学習者の教育の現場に「実学」として自分の研究を生かすためには、これまでもまして研鑽を重ねていく必要があるものと自覚しております。

今後私たちは、それぞれの希望と目標を持って新たな道へと進みますが、東北大学で学んだ経験を胸に刻み、微力ながら社会に貢献できるようそれぞれの分野でより一層の努力を重ね、人間性豊かな人格者に成長するべくこれからも精進を重ねる所存であります。

最後になりましたが、これまで懇切なるご指導をいただいた諸先生方、様々な形で私たちを支えてくださった職員の皆様、共に研究生活を送り、互いに励ましあってきた研究室の方々、そして常に陰ながら私たちの研究生活を応援してくれた家族に改めて感謝の意を表したいと思っております。

重ねまして東北大学の益々の発展と飛躍、皆様方の御活躍と御健勝を祈念して答辞とさせていただきます。本日は誠に有難うございました。

平成20年3月25日

修了生等総代

国際文化研究科 金 廷珉